



# 国際病理アカデミー

## 日本支部

A NEWS BULLETIN 2000 Number 1

Published quarterly  
by the Japanese Division  
of the International  
Academy of Pathology

### OFFICERS

#### PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (00)

Jikei University

#### PAST PRESIDENT

M. Suzuki, M.D. (00)

National Defense Medical College

#### PRESIDENT-ELECT

R.Y. Osamura, M.D. (00)

Tokai University

#### SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (00)

National Defense Medical College

#### COUNCILLORS

T. Manabe, M.D. (00)

Kawasaki Medical School

M. Tsuneyoshi, M.D. (00)

Kyushu University

H. Yamabe, M.D. (01)

Kyoto Univversity

Y. Kato, M.D. (01)

Cancer Institute

S. Mori, M.D. (02)

University of Tokyo

H. Hashimoto, M.D. (02)

University of Occupational and Environmental Health

#### COMMITTEE CHAIR

##### Education

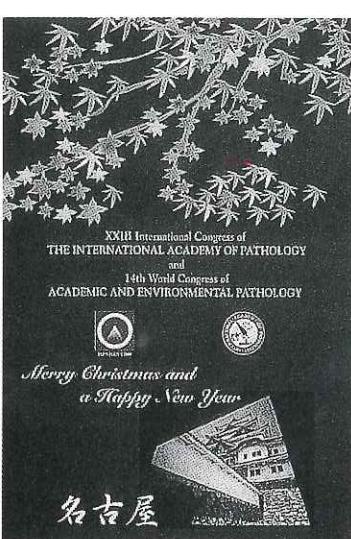
T. Morohoshi, M.D. (00)

Showa University

##### Finance

M. Shamoto, M.D. (99)

Fujita Health University



### President Message in 2000

### ---IAP Nagoya 2000の盛会に向けて---

会長 牛込 新一郎

(国際会議組織委員、広報委員会委員長)

IAP日本支部の会員の皆様、明けましておめでとうございます。

いよいよ新しいミレニアムが始まるということで日本も外国も節目として話題となっておりますが、先生方も節目を感じそれぞれ将来計画を立てておられることでしょう。

ご承知のように、今年はオリンピックの年であり、またIAP Nagoya 2000の年でもあります。これからがいよいよ正念場となります。今年の干支は「辰」ですが、「龍頭蛇尾」といわれる初めのうちは盛んであるが、終わりは奮わないということの無いようすべてが終了するまで心がける積もりであります。

IAP Nagoya 2000の2nd Announcement (call for papers) が暮れにはお手元に届いていると思いますが、ご覧いただけましたでしょうか。お正月に頂いた賀状の中には「IAPは人一倍頑張りたいと思います」とか「いよいよ Nagoya 2000ですね。頑張ってください」などの頼もしい付記があり、大変力強く感じた次第であります。

さて、皆様にここでお願いがあります。日本の病理医の絶大なるご協力を頂きたいのであります。多くの方が登録され、かつ多数の演題を申し込んで頂きたいのであります。日本から最低1000人以上が登録し、日本の底力を示して頂きたいのであります。日本の病理医は元気がないなんていう印象を与えたくないのであります。日本の病理学の現状と将来に関しては、現在色々の意見が聞かれますが、こんな場合こそ国際会議に積極的に参加し、持てる力を発揮しますと元気が出て、良い知恵が浮かぶように思いますが如何でしょうか？

外国からの登録を高める努力はいたしますが、日本が開催国である以上日本の病理医の活躍が少ないとになってはと心配しております。お隣の韓国からも多数の登録があるようYon Il Kim教授やMoon Ho Yang教授らが積極的に働いてくれております。タイ国からも出来るかぎり多数の参加があるよう2月に行き、要請してまいる所存であります。また3月にはニューオリンズで開催される米国・カナダ病理学会に行き一人でも多くの参加が望めるよう宣伝をしてくる所存であります。

登録費、スライドセミナー参加費、など結構費用がかさみますが、複数の演題の申込みをして、発表し、シンポジウムや各種コースに出来るかぎり参加して最新の情報を得ると同時に外国の参加者らと意見交換したり、パーティーなどで交流をしますと元が十分とれると思いますが如何でしょう。Buenos Airesの時も、Madridの時も、Budapestの時も自国や近隣諸国からのセミナー参加者が多く真剣に学ぶ姿勢が印象的ありました。

International Academy of Pathologyには世界で50支部がありますが、規模は様々で米国・カナダ支部に相当するUnited States-Canadian Academy of

Pathology (USCAP)は7500名の会員ですが、ネパール支部などは数10名程度であり、日本支部は600名弱程度です。国際会議への日本からの参加者は開催ごとに増えています。その活躍はめざましいものがあります。国外で開催される場合には高くて登録費は当然の感じで、旅行を兼ねて参加される方が割合多いのではないでしょうか。

新年にあたり、IAP Nagoya 2000の成功をめざして、ぜひ皆様の暖かいご支援を再度お願いする次第であります。

## SURGICAL PATHOLOGY UPDATE 2000のご案内

次期会長 長村 義之

米国では、  
Surgical Pathology  
は診療科として臨  
床医療に位置付け  
られており、診断  
の精度管理など全  
国的なレベルで討  
議され整備されて  
います。また、病  
理診断を対象とし  
た医療過誤訴訟の  
件数も我が国に比  
し圧倒的に多く、  
その面からも病理  
医は“診断にコン  
センサス”を得る  
ことを極めて重要  
と考えています。

我が国でも、Surgical Pathologyが確立されてきており精度管理なども病理学会の委員会でも取り上げられています。最近では、雑誌のみでなく、Internetなどでも医学に関する情報は入手しやすくなっていますが、我々の任務はこのような情報のネットワークにおいて「認定病理医による病理診断」を病理医の中だけでなく一般社会にも認めさせて行くことであらう。そういう観点で非常に参考になるのが毎年米国で行われているUSCAP(US-Canadian Academy of Pathology)であると思います。我が国からの参加者も年々増加していますが、ほぼ一週間にわたり Long course, Short course, Oral presentation, Poster presentation, Companion meetingなど診断病理に関する多くの演題があり実にinformativeであります。我が国でも、これまでIAP日本支部の主催するスライドセミナー、その他個別に開催されるスライドセミナーが開催され大いに評価されております。今回、IAP日本支部では、米国のSurgical Pathologyの分野で指導者として高い評価を得ているMaryland大学病理学教授のDr. Steven G. Silverbergに米国側のCourse Directorとなっていただき、毎年分野をかえての2泊3日のスライドセミナーを企画しました。



- 米国側のFacultyが症例のH&E標本を配布し当日時間をかけて解説する。
- 日本側Facultyによる我が国の現状の講演
- 夕刻を利用したConsultation hourでの実際の症例を提示してのDiscussionなどが主なる内容です。

米国第一線のSurgical PathologistsとのDiscussionを通して「生きた診断病理を」習得することを目的としています。

最初の年である今回は乳腺と前立腺の外科病理を取り上げました。スケジュールの詳細は後述します。Facultyの紹介をしますとCourse DirectorのSilverberg教授、Johns Hopkins UniversityのJonathan I. Epstein教授、東北大学の笹野公伸教授、森谷卓也助教授、杏林大学の古里征国教授です。奮ってご参加ください。

参加費は、37,000円で2泊3日の宿泊費、食事（一日3食）代、スライド鏡検（事前に配布）、ハンドアウト代などを含みます。標本は当日回収いたします。なお、日本病理学会の後援を得、参加者には認定病理医の更新のための10単位が渡されます。またサクラ精機よりの多大な後援も受けています。

ご希望の方は同封の用紙に氏名、所属、連絡先、電話、FAX番号を記入して、FAXにて事務局（防衛医大第2病理松原042-996-5193）までお送り下さい。締め切りは平成12年3月31日です。希望者が多い場合は抽選とさせて頂きますことをご了承下さい。

まお、会場は神奈川県の葉山にある湘南国際村センターを予定しています。その場所と全景の写真をお示しします。

### ■鉄道をご利用の場合 Transportation

● 東京から約90分

JR横須賀線（東京～逗子）約60分  
JR逗子駅、京浜急行新逗子駅、京浜急行バス  
人船から京浜急行バス「湘南国際村行」、  
「湘南国際村センター行」利用で約30分  
150 min. by JR Narita Express and bus from  
Narita Airport.  
90 min. by JR Yokosuka line and bus from Tokyo.

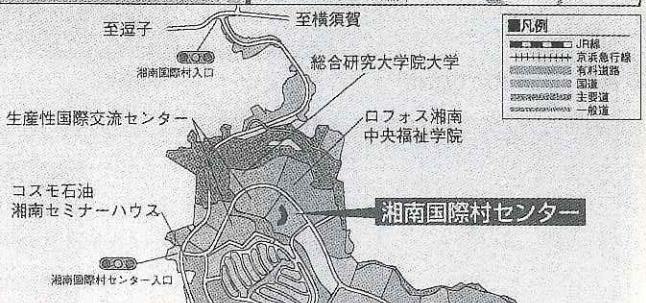


### ■車をご利用の場合

● 横浜横須賀道路の横須賀インターチェンジから約15分

-----バスを利用した経路

-----車を利用した経路



# 湘南国際村センター全景

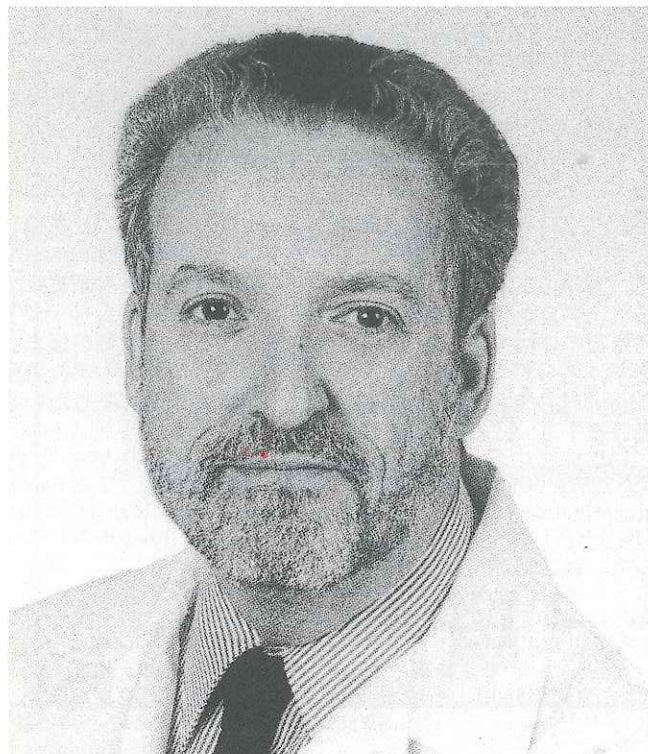


## Steven G. Silverberg教授 からのメッセージ

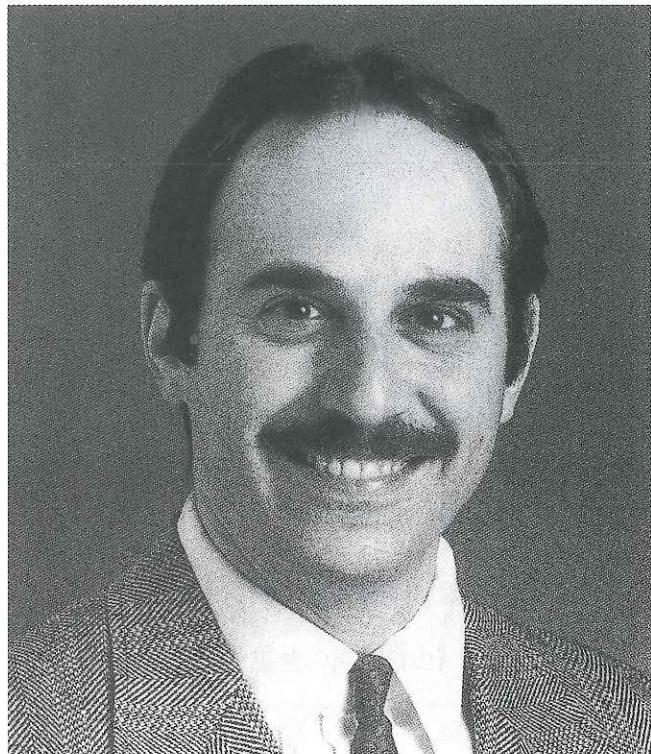
Breast pathology has become considerably more complex in recent years, as smaller and "earlier" neoplastic and preneoplastic lesions are diagnosed in ever smaller specimens. Therapeutic decisions are now based not only on a "benign or malignant" diagnosis, but on estimates of risks for progression to invasive cancer of various benign and noninvasive malignant lesions, and risk for

progression to clinical metastatic disease of invasive cancers applying different histologic and nonhistologic prognostic markers. The material in this course will emphasize the role of the surgical pathologist in interacting with the breast disease clinical team, and cases will be presented to emphasize practical diagnostic and prognostic decisions which must be made by the surgical pathologist.

Steven G. Silverberg, M.D.  
Professor of Pathology  
Director of Anatomic Pathology  
University of Maryland



Dr. Steven G. Silverberg



Dr. Jonathan I. Epstein

# SURGICAL PATHOLOGY UPDATE 2000のスケジュール（案）

## June 9 Friday

- 12:00 Registration  
13:00 Opening Remark and Introduction of Faculties Dr. S. Ushigome  
13:30 Introduction to Breast Pathology Dr. S. G. Silverberg  
14:30 ----- Coffee -----  
15:00 Introduction to Prostate Pathology Dr. J. Epstein  
16:00 Breast Diseases in Japan Dr. H. Sasano and Dr. T. Moriya  
17:00 Prostatic Diseases in Japan Dr. M. Furusato  
18:30 ----- Welcome Dinner Party -----  
20:30 Microscopic Discussion

## June 10 Saturday

- 09:00 Case Presentation (Breast Pathology) Dr. S. G. Silverberg  
10:30 ----- Coffee -----  
11:00 Topics in Breast Pathology Dr. S. G. Silverberg  
12:00 ----- Lunch -----  
13:00 Case Presentation (Prostate Pathology) Dr. J. Epstein  
14:30 ----- Coffee -----  
15:00 Topics in Prostate Pathology Dr. J. Epstein  
16:00 Consultation Hour Dr. S. G. Silverberg, Dr. H. Sasano,  
Dr. T. Moriya, Dr. J. Epstein  
and Dr. M. Furusato  
19:00 ----- Dinner -----

## June 11 Sunday

- 09:00 Problems in Surgical Pathology - Breast Dr. S. G. Silverberg, Dr. H. Sasano  
and Dr. T. Moriya  
10:30 ----- Coffee -----  
10:30 Problems in Surgical Pathology - Prostate Dr. J. Epstein and Dr. M. Furusato  
11:30 Summary of SP Update 2000 Dr. S. G. Silverberg  
11:45 Closing Remark Dr. R. Y. Osamura

## スライドセミナーのテーマと講師名 アンケートの集計

2月5日に締め切ったアンケートの集計をカテゴリーに分けて報告します。2月21日の理事会で討議して決めたいと思います。 教育委員長 諸星 利男

### <神経系>

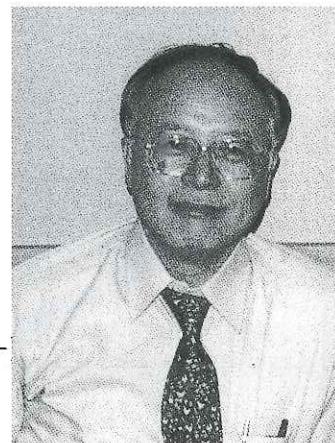
- ・脳腫瘍
- ・神経系変性性疾患の病理 up-to-date 村上俊一

### <頭頸部>

- ・耳鼻科領域の病理
- ・歯原性腫瘍
- ・口腔腫瘍

### <上部消化管>

- ・食道生検の病理 下田忠和 (がんセンター)
- ・胃炎の病理 板橋正幸 (茨城県立中央病院)
- ・上部消化管の病変



藤森孝博 (独協大学)

- ・上部消化管生検の病理
- ・肝胆脾

- ・肝生検の病理
- ・肝内・肝外胆道疾患 中沼安二 (金沢大学)

### <膵胆道系病変>

### <肺>

- ・肺腫瘍
- ・肺癌の組織診断 井内康輝 (広島大)

### <内分泌>

- ・甲状腺病理
- ・乳腺の病理
- ・副腎の病理 木村伯子 (東北労災病院)
- ・FNAによる診断 (甲状腺・乳腺)

### <血液病理>

- ・FNAによる診断 (リンパ節) 社本幹博 (会計監事)

### <泌尿器系>

- ・腎生検
- ・腎生検の病理
- ・前立腺の病理 原田昌興または古里征国 (杏林大学)
- ・前立腺腫瘍 原田昌興 (神奈川がんセンター)

### <骨軟部>

- ・骨腫瘍 中嶋安彬 (京大)
- ・骨腫瘍 野島孝之 (金沢医大)
- ・非腫瘍性骨病変 町並陸生 (河北病院)
- ・非腫瘍性骨軟部病変 石田 剛 (東大)
- ・軟部腫瘍・遺伝子診断

- ・軟部腫瘍の病理 橋本 洋 (理事)
- ・皮膚

- ・炎症性(非腫瘍性)皮膚疾患の病理

### <婦人科>

- ・子宮の病理
- ・総論的テーマ
- ・毒性病理 (環境、中毒など)
- ・外傷・傷害の病理
- ・新興(再)感染症の病理
- ・真菌症の病理 堤 寛 (東海大)
- ・寄生虫症の病理
- ・自己免疫疾患の病理
- ・FNAと生検診断の比較

~~~~~

## 2000年度教育シンポジウムに対する アンケート集計結果

~~~~~

2月5日に締め切ったアンケートの集計をカテゴリーに分けて報告します。2月21日の理事会で討議し、東北大学の名倉 宏教授とも相談の上、決めてゆきたいと考えています。

### <新しい技術>

- ・病理組織、血液材料を用いた遺伝子研究ならびに診断と倫理（笹野公伸と堀井 明、東北大）
- ・分子病理診断
- ・免疫組織化学の到達点（技術編、ISHも含めて）
- ・診断に役立つ分子生物学的なテクニック
- ・遺伝子診断の現況と問題点
- ・病理診断に必要な遺伝子解析（悪性リンパ腫、脳・神経系、内分泌腫瘍、消化器等）
- ・Microdissectionの技術とデータ解析（既に一定の業績を上げている方に）
- ・病理技術
- ・病理診断に役立つ新しい技術アラカルト（笹野公伸）

### <病理業務との関わり>

- ・画像と病理診断
- ・病理医に必要な外科手術、画像解読（CPCに必要な知識）
- ・細胞診と病理組織診断の補完
- ・病理と臨床検査の将来、特にAP/CPの将来（熊坂一成、日大臨床病理）
- ・病理に関する法律
- ・病院病理の運営と教育

### <総論的なテーマ>

- ・感染症の病理
- ・再生・万能細胞の病理
- ・肉芽腫性疾患

### <消化管>

- ・炎症性腸疾患の病理（藤森孝博、独協医大）
- ・大腸上皮性腫瘍の病理診断：診断基準と再現性について（岩下明徳）
- ・GISTの病理（岩下明徳、福岡大）
- ・消化管内視鏡治療病変の取り扱い（加藤 洋または藤森孝博）
- ・腸非腫瘍性病変

### <血液病理>

- ・血液系腫瘍の新展開（分類、診断、治療など）
- ・悪性リンパ腫
- ・EBウイルス感染症

### <内分泌>

- ・内分泌疾患の病理と分子生物学（長村義之、次期会長）

### <血管>

- ・血管炎（発地雅夫、信州大）

### <肺>

- ・肺癌の前癌病変（野口雅之、筑波大）

### <腎>

- ・腎生検の病理（山口 裕、慈恵医大）

### <肝胆膵>

- ・肝胆道膵の腫瘍

~~~~~

## <<< 事務局よりお願い >>>

### 年度会費納入のこと-----

同封の郵便局での振り込み用紙で年会費4,000円ほどお振り込みください。前年度、前々年度などもお忘れの方もいらっしゃいますのでよろしく。

~~~~~

### 新入会員の募集について-----

IAP日本支部では、まだ会員となられていない方々の入会をおすすめいたします。入会希望の方がおりでしたら会員申込書（事務局へ請求して下さい）にてお申し込みください。

入会資格：病理学の経験年数5年以上で、現在病理を専攻されている方。

入会方法：入会申込書にご記入の上、IAP事務局までお送り下さい。その際、会員2名の推薦が必要となります。お近くに適当な方がいらっしゃらない場合は、事務局にご相談下さい、我々が推薦者となることも可能です。入会が承認され次第、振込用紙を送付いたしますので、その後入会金1,000円、年会費4,000円、合計5,000円ほどお振り込みください。

特典としては、

1. IAP本部に会員名が登録され、各国支部の活動などが分かります。IAP本部のNews BulletinのInternational Pathology（年4回）が届けられます。2年ごとに開催されるIAP国際会議の連絡を受けやすくなります。

2. IAP日本支部の会報である国際病理アカデミー日本支部のNews Bulletin（年4回）が届けられます。本学会のニュース、海外のセミナーなどの情報が掲載されます。

3. Laboratory InvestigationやModern Pathologyの雑誌が大変安価に購読できます。Laboratory Investigationの市場価格（年間）：43,500円に対してIAP会員（年間）：11,000円、Modern Pathologyの市場価格（年間）：31,200円に対してIAP会員（年間）：11,000円です。

4. 本学会の病理学教育セミナー（スライドセミナー、教育シンポジウムー日本病理学会の後援ー）などに参加しますと、認定病理医資格更新のための単位がもらえます。

5. 終了したスライドセミナーのセットが会員のみ（原則として施設単位）に頒布されます。

6. スライドセミナーのセットが借用できます。

**あとがき**： 今回は2000年のNo.1のブレティンを届けます。今年10月はいよいよ名古屋でInternational Congressです。大枠のプログラムが決まり、一般演題の募集も始まりました。プリントでの締め切りは3月6日で、ホームページを利用してのは4月5日です。より多くの方々の応募が望れます。各分野で準備に取り組んでられる方々にもIAP名古屋Congressの成功のため頑張りましょうとエールを送りたいと思います。

IAP本部に日本支部会員数594名 x US\$4.00で、合計US\$2,376.00程送金しました。また、雑誌購読でLaboratory Investigation (US\$90 x 38名) and Modern Pathology (US\$90 x 71名)合計US\$9,810.00送金しました。US\$1.00=108円の時でした。雑誌購読では事務局はトントンを狙っていて、場合により赤字となります。これはIAP本部の各支部会員への還元とのこと、これでは決して日本支部事務局は上前をはねていません。

常任幹事：松原 修／事務局秘書：佐々木洋子  
〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医科大学校病理学第2  
P: 042-995-1507 / F: 042-996-5193  
E-mail:matubara@ndmc.ac.jp

## 染色性が良く連続処理が行える 自動染色装置



- 染色性を更に高める  
新薬液振盪システム
- 作業効率と生産性を高める  
連続処理機構
- 簡単・確実な日本語表示の  
対話式プログラム入力
- 設置スペースをとらない  
薬液槽2段配置構造

## サクラ自動染色装置

医療用具許可番号:20BZ0016

DRS-2000

### 標本作製のフローが一段とスムーズ

染色装置と封入装置のバスケットは互換性がありますので、検体の移し替えがなく、染色から封入行程への移行がスムーズに行えます。

高品質で高速処理  
病理標本を1時間当たり  
最大400枚封入できます。

- 封入作業の高速処理を実現
- 封入速度・封入剤吐出量をリアルタイムに変更
- 独自の封入動作で高品質の標本作製

自動ガラス封入装置

### サクラ プリムエイド SGC-400



発売元  
**サクラ精機株式会社**  
東京都中央区日本橋本町3-1-9